(日本医療安全推進学会ニュースレター2025年7月1日)

日本医療安全推進学会による医療安全の新たな世界

--- 医療の全部門からの安全増進 ---

国際医療安全推進機構/国際医療リスクマネジメント学会/日本医療安全推進学会
理事長 酒井亮二

21世紀に入って日本を含めて世界における甚大な医療事故に対する取り組みが本格化しました。健康科学一辺倒の20世紀の医療を反省して、医療での様々な安全と危機管理の諸問題を科学的に検討するために、2002年にスイスにて「国際予防医学リスクマネジメント連盟」を設立し、また「日本予防医学リスクマネジメント学会」も併設しました。2012年に国際予防医学リスクマネジメント連盟は臨床安全問題も含めることを明示するために「国際医療リスクマネジメント学会」と改名しました。同年、日本予防医学リスクマネジメント学会からは「日本臨床医学リスクマネジメント学会」と「日本医療安全学会」が派生し、前者は医療事故の危機管理部門、後者は医療安全管理者向けの学術団体としました。日本医療安全学会は医療安全の法や行政の日本国内の課題も内包しました。

この過程の中で、2021年には「一般社団法人国際医療安全推進機構(MSPO)」という医療の様々な安全に関する教育、研究を国内外で展開する学術団体を設立し、その学会部門として上記の国際医療リスクマネジメント学会、「日本医療安全推進学会(2021設立)」および「医療安全心理・行動学会(2021年設立)」を所管しました。日本医療安全推進学会の活動は以下の通りです。

(1)品質管理による医療安全

翻って、労働環境(工場内、工事現場)での死亡事故、交通機関(鉄道、自動車、航空機)でのおびただしい死亡事故の世界的な発生。高度機械化文明の出現による甚大な多数の人身事故は100年以上前から深刻な社会問題となりました。これは人間-機械系での人身事故であり、工学的安全向上が高度機械化社会における必須課題になりました。安全な品質を有する製品が人類生存の土台と認識され、人間の特性に応じた機械文明の開発として品質管理工学ないし人間工学(ヒューマンファクターズ、エルゴノミクス)が発展しました。日本医療安全推進学会では医療安全基礎講座と医療安全教育セミナー(ヒューマンファクターズ編・現事故対応編)という社会人教育によってこれらによる医療安全の基本知識と技術を紹介し、会員資格として制度化しています。これらの研修会は

2003年から順次に国内で毎年開始し、日本ではもっとも古い歴史を有します。また、日本医療安全推進学会では安全工学分科会を設置し、安全工学研究者による持続的な検討を行います。

(学会による各種の教育研修会の例)

医療安全概論 (基礎理論)
医療安全基礎講座 (基本方法)
医療安全倫理・モラル研修会
医療安全教育セミナー(実践編)
医療安全教育セミナー(事故対応編)
臨床安全コミュニケーター(基礎編)
臨床安全コミュニケーター(クライシスコミュニケーション編)
チーム医療安全研修会
医療事故調査セミナー
相談・コーチング・コンサルテーション研修会
リスク分析・調査
リスク情報安全学
感染症の医療安全
甚大災害の医療安全

(2) 産業医学、リスク学、心理学による医療安全

高度機械化による甚大な人身事故発生という深刻な社会問題は、産業医学、心理学、社会学といった工学以外でも長い間にわたり広く活発に取り上げられてきました。危険に対する許容範囲、対策の対費用効果、コンプライアンス、組織文化、ガバナンス、リスク評価・分析、コミュニケーション、危険行動、モラル、ウェルビーイングといった多種多様な安全に関する基本的考えが、品質管理工学以外の学術研究から提起されています。医療安全もこれらの様々な観点に立脚する必要があります。

つまり、医療安全は何かのシングルイシュー(単一の物差し)だけで解決できるほど単純問題ではなく、学際科学、総合科学として展開する必要があります。日本医療安全推進学会では医療安全担当者、医薬品安全担当者ならびに看護安全担当者向けの認定資格制度によってさまざまな医療安全の専門家を総合科学として育成しています。

(学会認定の資格制度)

医療安全高度専門家、医薬品高度専門家、看護安全高度専門家

なお、人-人の職場である医療現場での安全には人間の心理と行動という人間要因も大きな要素です。そのために医療安全心理・行動学会も設立し、日本医療安全推進学会には相談コンサルの分科会も整えました。

(3) チーム医療における医療安全

専門分化が高度に発達した医療機関では、多職種チーム医療が基本です。また、一人のパワーより複数の人間によるパワーが困難な安全の作業を容易に達成しやすいものです。これらから多職種連携による安全推進が不可欠です。本学会ではチーム医療分科会で本テーマを掘り下げ、その研修会を永続的に実施することにしました。同時に、次世代の人材育成事業に関する委員会と分科会も開設されました。

(4) 医療の専門でのテクニカルエラーと臨床安全

以上は医療安全の基本システムに関与するノンテクニカルエラーの課題です。しかし、日々高度に発達する各種の医療分野では専門的な新たな臨床安全課題が次々に発生します。これらのテクニカルエラーへの対応には医療のすべての領域での専門的安全が膨大に実在し続けます。そこで、外科、内科、産婦人科、麻酔科、脳神経学、癌治療、感染症、救急・災害医療、など医療のすべての診療全部門ごとの専門分科会を設置しました。また、高度に発達する各種診療に共通する医療技術として、医薬品、臨床工学、検査、画像診断、医療情報、看護、医療事務などに関する専門分科会も開設されました。

(委員会・分科会の例)

若手人材育成委員会
病院長分科会
医療安全分科会
外科分科会
内科分科会
小児分科会
脳神経分科会
歯科分科会
産婦人科分科会
麻酔分科会
リハビリテーション分科会
医薬品分科会
薬学の医療安全教育分科会
看護分科会
臨床工学分科会
救急・災害医療分科会
感染症分科会
安全工学分科会
情報技術分科会
安全チーム分科会
事故調査分科会

診療放射線分科会
臨床検査分科会
画像診断分科会
医療事務分科会
腫瘍分科会
臨床相談分科会

以上から日本医療安全推進学会では「医療の全部門からの安全を推進する」ことがキーワードとなりました。このためには、病院長、医療安全担当者を含む医療機関の全職員による安全への取り組みを行います。また、専門部門での臨床安全を多職種連携で行います。更に、ある専門部門での安全の取り組みは他の専門部門の良い教材になる場合もあります。

(5) 日本医療安全推進学の特徴

20年の歳月を経て、日本医療安全推進学会は医療安全の総合高級百貨店として誕生しました。様々な分科会、様々な職種別交流促進会、多職種交流促進会など盛りだくさんの活動を展開する場です。なお、学会理事は全職員とも任期制であり、2年ごとに代議員による審査・改選が行われ、永久不滅の役職ではありません。(理事長任期は1期2年のみ)。これにより理事会の活性化が常時諮られ、常に社会の新たな要請に対応する元気な組織として皆様にお答えすることができます。

日本医療安全推進学会は医療安全という総合科学を推進する場です。世界初のシステムでもあり、皆さんでご活躍、育成をお願いします。